

環境対策・総合戦略について 市内中学校重大事故のその後について

吉野 高史 議員

質問 赤生田町の黒い土で埋め立てられ、盛り土がそびえ立つ状態になっている件について、業者による県や市に対する働きかけは。

答 県土砂条例に基づく許可申請に向け、県との事前相談や設計業者との協議などの準備を進めていると伺っております。

質問 部活動中に事故に遭われた生徒のご家族から市に対しどのような要望があるのか、お尋ねいたします。

答 ご家族からは、この事故をいつまでも忘れないでほしい、今後はより一層の安全対策をとってほしいなどの要望を受けています。
質問 部活動中にけがをさ

れた生徒への学習指導や進路相談について伺います。

答 昨年3月下旬より毎週1回1時間程度病院で、退院後は家庭で学習支援を行い、今後も当該中学校と連携しながら学習支援や進路相談を続けてまいります。

質問 重大事故を再発させないために、教育委員会に学校事故対策防止係を設置し、事故防止や重大事故の検証を行っていく考えは。

答 学校危機管理については学校教育課指導係長が

担当しており、今後は学校事故対策防止係を指導係長に兼務させたいと思います。

質問 総合戦略の基本目標3には、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶えるところがあるが、本市はどれだけ危機感を持ち、基本目標の達成に努力していますか。

答 社会福祉協議会での結婚相談事業や平成27年12月には婚活支援事業補助金を創設したほか、妊娠・出産包括支援事業の実施などに取り組んでおります。

質問 総合戦略の目標を掲げながら未達成と思われる項目について、今後どのように取り組んでいくのですか。

答 基準値を下回っている指標については、なぜこのような実績値になっているのか改めて検証し、課題を的確に抽出していきたいと考えております。

要望 市長の考えや方向性を次の五か年計画に反映させ、職員にコントロールされず職員を動かし素晴らしい館林市実現を要望します。

中学部活動の今後のあり方と 教職員の多忙解消について

小林 信 議員

「過労死ライン80時間」

質問 中学校の部活動に対するあり方や教職員の多忙化が問題になっております。平成21年の一般質問で取り上げたところ、県教委の調査では「過労死ライン80時間」に匹敵する業務内容となっていました。部活動は自発的・自主的に活動する課外活動

の一環として、時間外勤務とはなっております。

長時間勤務によって精神的、肉体的な負担となり、希望に燃えて教職に就いた人が途中で退職や休職を余儀なくされている人も少なくないと思います。こうした状況をどのように改善しようとしているのですか。

「過労死ライン」を超える

答 現在、平日の時間外勤務は1か月50時間になり、土日の部活動時間を加えると82時間となることから、過労死ラインを超えた苛酷な仕事をしている状況であると思っております。今後の部活動のあり方について十分検討していかなければならないと考えております。

質問 部活動の顧問をしている45%の教員は、今まで経験したことがないスポー

ツの顧問をしており、大変困難な状況だと思えます。国では来年度から部活動指導員など教員以外の専門スタッフや教員に対するスクールサポート事業などの業務効率化に対する予算を計上しているようです。毎日の練習や対外試合などの部活動の指導により「家族崩壊につながりかねない」と心配する保護者もおります。教育委員会として、今後どう対応していく考えなのか、お尋ねします。

子どもと向き合う時間を

答 部活動指導員は外部講師と違い、一人で引率や練習を見ることができると、本市としても国に対して要望しております。また、スクールサポートスタッフの配置や学校のIT化は、教職員の多忙感を削減するために大きな威力を発揮すると思っておりますので、削減した時間を教職員の教材研究の時間や子どもと向き合う時間に振り分けていければと考えております。